

ある。また此の差別を認むるが故に文化は獨逸專賣のものでもなければ羅匈系統の國家のみのものでもなく、また東洋計りが優秀な文化を持つてゐることも限らぬのである。此の様に文化に差違ある爲に其の間に、争の起るのは、事實上あることである。そして互に他の文化を理解しないで、自分のもの計りがよいと思ひ込む結果遂には戦争等にもなる。そして、文化の方面に二つあるとしたり、或は精神的、物質的としたり、或は英國の文化、獨逸の文化とする如きは、文化の一方面ではあるが根柢ではない。根柢になるものは、文化の絶對的方面が決して動くこと無く、即ちこれは人格から來た絶對的價値で何處の國でも同様で、しかも何國にも妥當なるべきもので、それに達せんが爲に諸國の異なる文化があるのである。即ち根柢は只一つあるのみで、表面が變るのである。變るが故に何時迄も一定の文化内容を保有して居るのは悪い。變らぬ處がある故に保有すべし、といふ人があるが、不動の文化は過去にあるのでは無くて、過去にも、未來にも、常にあるのである。故に或る一時代に拘泥する文化は取るべきものではない。或時代に或特別な形式を取つて顯れた文化の本質は他の時代には又之と異なつた形式をとるべきものであるからである。それで何處までいつても満足は無いから、極めて頼りない様ではあるが、其處に生きた生活があつて、學問をすゝめ教育を盛んにして行くことが出来るので、もし文化の本質内容共に固定せるものであつたならば、人々の折角の骨折も無意味なものになつてしまふ。所謂物質的發達も斯る方面より見て意義があるのであつて、只時々の必要をなす爲のみのものであつたならば、衣食住に追はれて行く人の生活と何等の撰ぶ處が無い。

大體文化の意味を以上のやうに考へて、其處に我々が學問をし教育をする根柢があると思つてお話ししたのであるが、ひどく抽象的になつたけれども、それに肉をつけるのは諸君の知識經驗に俟つとして、私は只骨格だけを話したのである。(丁)

歐州文明と個人主義

保 科 孝 一

【一】

日本の言語と歐羅巴の言語とを比較して、その間に多少類似したところがあるから、日本語はウラルアルタイ語族に屬するものでなくして、アリアン語と系統を同じうするものである。したがつて日本人は蒙古人種でなくしてアリアン人種であると得意がつて居る人があります。しかしたとひ言語に類似があるにもせよ、これによつてこれを話す國民が同一の人種に屬するものであると斷言することの出来ないのは、苟も言語學の一端を修めたものが、皆首肯するところで御座います。況んや類似の證明が全く非學術的であるとすれば、かゝる斷定は一顧の價値もないものであります。言語の比較的研究と申すことはなか／＼困難な事業でございます。素人の片手間に出来るもので御座いませぬ。それにも拘らず日本語はアリアン語系に屬するものであるから、日本人はアリアン人種で蒙古人種でないといふやうなことをしきりに主張して居る人があつたのは、私どもには甚だ奇妙に感じられます。なせこの人達は日本人が蒙古人種でなくしてアリアン人種であると言ひたがるのでせう。おそらくアリアン人種が蒙古人種に比して非常に優等であると信じて、若し日本人がアリアン人種であるとすると、大に肩身が廣いやうに感じられるといふのではありますまいか。アリアン人種が事實蒙古人種よりも優等な人種であるとしたら、さう感じてても宜いか知れませんが、さういふ證

明が出来て居りませうか。私は甚だこれを疑つて居ります。實際私の観察したところによりますと、何を苦しんで歐洲の文明にあこがれる必要があるかと存じられません。

【二】

物質的文明のみに重を置いて觀察致しますと、伯林にせよ、巴里にせよ、倫敦にせよ、將た紐育にせよ、残念ながらわが東京は比べものになりません。伯林の市街はアスファルトでありまして、水を撒きながら雑巾でそれをふいて居りますが、この道路の掃除に費す一ケ年の金額は、わが東京市の一ケ年の豫算と伯仲の間にあると聞いて、われ／＼は實に驚かざるを得ませんでした。一千八百十三年の戦捷を記念するために、ライプチヒ市に建設された記念塔の總豫算が六百萬マーク即ち約三百萬圓でございます。又同市に建築中の中央停車場の豫算は一億五千萬マーク即ち約七千五百萬圓でございますが、紐育の中央停車場の建築費はこれよりも更に多いと聞いて驚かざるを得ません。紐育にあるウルウオースといふ建物は高さ七百五十尺で五十五階になつて居りますが、猶之を以て満足致しませんで、最近高さ九百尺の家屋を建築せんとして計畫中であると聞きました。若しかういふ物質的文明の進歩を見ますと、われ／＼は容易に企て及ばないやうに感じられます。然し一方から見ると、これも金の問題で、金がありさへすれば、日本人にも出来ないことがないと思つて存じます。論より證據、富貴な人が優等人種で、貧賤なものが劣等人種であるとは申されませう。物質的文明の如何によつて人種の優劣を斷定されては堪りません。

然し乍ら自然を制するといふ力は、今日のところわれ／＼よりも歐米人が確に優つて居ります。即ち機械の力により自然を制することが年に月に進んでまゐりました。たとへば飛行機や飛行船で自由に空中を飛び

廻ることが出来ますし、潜航艇によつて大西洋を横斷する事も出来ます。人知の進歩はますます自然を制することが出来るやうになりましたが、この點において今日のところ確に日本人よりも歐米人が優つて居ります。けれども日本人は人種として劣つて居るわけではなく、つまり一步彼に遅れて居るのでありまして、彼等はまだ大學を卒業したもの、われ／＼はまだ在學中のものといふところでございます。これから少し奮勵すれば彼等に追付くことが左まで困難でないと思つて存じます。つまり先進と後進の關係で、人種の優劣でないでございます。

【三】

右のやうに考へてまゐりますと、何もさうアリヤン人種になりたいことも御座いませぬし、精神的文明の方面から見ますと、われ／＼は確に彼等よりも遙に優つて居ると存じます。これは決して自惚では御座いません。耶蘇教國の人々は慈愛の心に富んで居るとか、「汝の敵を愛せよ」といふ精神を信條として居るとか申しますけれども、これは甚だ怪しいものだと思ひます。第一次第二次の巴爾幹戰爭において、異教徒を殺戮し、強姦し、虐待したことは言語同斷でございます。耶蘇教徒の残忍な行爲は實に筆紙のよく盡すところでありませんでした。無辜の民を故なくして射殺するし、財産は掠奪するし、その殘惡な行爲は東洋人ことに日本人には決して想像することも出来ないのでございます。上杉謙信が敵に鹽を贈つたといふやうな美しい心は彼等に全く缺けて居ります。汝の敵を愛せよといふのは唯口の先ばかり。今次の戰爭において俘虜などは實に悲惨な取扱を受けて居るものが少くないさうです。日本人こそ眞に汝の敵を愛して常に禮を以て俘虜を遇して居りますが、かういふ美しい情緒は彼等にどうも缺いて居るやうに見えます。獨逸が白耳義の

中立を蹂躪し、その國土を荒廢に歸せしめたことなどは、耶蘇教徒として醜を千載の後に遺したものとしか思はれません。いはゆる文明の戦争は今次の歐洲動亂において見ることが出来ないのみならず、われ／＼東洋人から見て不快に感ずることだらけで、彼等の精神的文明に憧憬すべきところが何處にあるかと思はれる位でございます。ここに物質的文明の發達は彼等を極端な個人主義に導きました、かりに戦争の場合は例外として暫く之を恕するとしても、個人主義の發達に原く歐洲文明の裏面を觀察すると、嘔吐を催すことが少くない。それについて少し述べて見ませう。

【四】

金蔭繪の重箱に馬糞を詰めたやうなものといふ形容を聞いたことがあります、歐洲の文明に對しては、もつとも適した評語であると存じます。家屋を見るとまばゆい許りに輪奐の美を盡して居りますが、そこに悲惨を極めた生活があるのでございます。物質的にあらゆる満足を充して居りましたが、精神的に非常な苦痛を感じて居るので、それらの苦痛によつて來る源は個人主義にあるので、實に歐洲文明は個人主義の權化であります、しかしその暗黒面もこの主義によつてあらはれて居ります。われ／＼も徹頭徹尾この主義を排斥するものでありませんし、場合によつては我邦でももう少しこの主義が發達しないと困ると思ふこともございますが、しかし歐羅巴のやうに極端になつても考へものだと思ひます。歐羅巴の上流社會は存じませんが、中流以下の社會では、親子兄弟の間にもわれ／＼日本人の家庭において味はうやうな暖味が全くないやうに見受けられることがしばしばありました。先年瑞西で『非日本』といふ書を公にして日本の文明を罵倒した人がありましたが、その中におよそ日本人のやうな不可解な人種がない、友人の借金を辨償してやるやうな

ことをすると書いてありましたが、成程歐羅巴人の理性から見たらこの位不可解なことはありますまい。親の借金は子が拂ふ義務がありませんし、子の借金を親が拂ふといふこともありませんから、況んや友人の借金をやです。歐羅巴人は金の前には親子兄弟の別を失つてしまひます。子供がある職業について報酬を受取るやうになると、親はその子に對して室料や食料を請求します。そこで負ける負けないの争があらましてよく折合ひません場合には、子はそこを去つて他に下宿します。子は親を因業とそしり、親は子を吝嗇とものしるのを聞いたこともございます。又よく折合ひましてしばらく親の許に留ることになりますと、子は他の下宿人と同じく客分の待遇を受けますので、親が子の靴も磨きますし、食事もその部屋へ運んで來ます。子は客分ですから大威張で、珈琲がまづくて飲めないといふやうな小言も申しますが、親は唯々として以來氣をつけますといふやうなことを言つて引下ります。こんなことは皆々でもありますが、私どもの經驗した下宿などには随分さういふのがありました。私の伯林に居りました下宿に娘が二人ありましたが、どういふものか母親がその妹の方を可愛がりました、相當に身なりを整へて呉れますが、姉には少しも構ひませんので、破れ靴を穿き随分可愛相な風をして居りました。我邦の御伽噺にもかういふのがありますから、いつも姉を見るとそれを思ひ出しました。ところが姉娘が補習教育を終へてタイピストになり、若干の報酬を得てこれを母親に呈するやうになりました。するとそれから母親の態度急變、新しい衣服や靴を整へてやり、しきりにその機嫌を取ります。朝食の際その姉娘に半熟の玉子二つ附けてやりますと、姉娘はそれを一人で食べてしまひまして、傍に妹が欲し相な顔をして見てをりますが、決して分けてやりません。晝食のとき家に歸つてまゐりますが、サイダーが飲みたいといふと、母親が大急で一本買つて來てやりますと、姉娘はうま

い／＼とほめ乍ら飲んでしまひますが、お母さんひと口御上りなさい、花ちゃん飲んで御覽などは夢にも申しません。妹は指をくはへて羨しさうに見て居ります。これはつまり権利の觀念から來るので、姉は月給を貰ふから半熟の玉子やサイダーを食べる権利を有して居るわけですが、妹はまだ通學の身ですから、それに與る権利がないわけです。この振合は私どもにはどうしても分りません。彼等は日本人を不可解な人種だといふなら、われ／＼は歐羅巴人こそ不可解な人種だと申したのでございます。これも畢竟歐羅巴の文明は個人主義によつて發達し、日本の文明は家族主義によつて發達してゐる結果に外ならぬ存じます。

【五】

個人主義の下に發達した文明を仔細に觀察しますと、随分悲惨的暗黒面が多うございます。歐羅巴では嫁が一週一回舅姑を尋ねると、親孝行の龜鑑になるのだと聞きますと、何となく妙な氣がします。然し個人主義にも随分學んでよいところがございます。たとへば歐羅巴人が數名相伴つて郊外散歩にまゐりまして晝食のため料理店に入るとしませう。或る人はいろ／＼味いものを取寄せて食べる。ある人は二三品取寄せるといふときに、或る人はパンと冷肉を少し註文してそれで済ますといふことは、少しも珍しくありません。これは腹工合懷工合それから趣好によつて異なるので、さうしたところで少しも可笑しくはない譯ですが、日本ではなか／＼さうは行きません。友人が貳拾五錢の上等辨當を買ふときに、自分は拾五錢の並辨當か拾錢の壽司ですまるといふことは、ちよつと肩中の狭いやうな氣がして、よほどの勇氣がないとそれが出來ません。西洋料理店に入つて友人が壹圓のメニューを食べるときに、自分はライスカレー一皿ですまして居ることとは出來ません。もしさうすると友人から吝嗇漢のやうに思はれます。腹工合や懷工合によつて壹圓のメニ

ューの御附合をしたくないこともありませうが、それを強て御附合しなければならぬものも苦痛でもあるし、無駄なことだと存じます。獨逸の内地を旅行して居るとき、車中にアルプス登山の夫婦者と連の婦人とが居りました。夫婦者は籠から葡萄を出してしきりにうまい／＼と食べてをりましたが、夫婦だけで褒めただけでは物足らないかしまして、その一房を連の婦人に示し、これはライランドから來たもので、それは／＼おもしろ御座いますよと申しましたが、しかし一つお上りなさいとは申しません。そんなら何も見せびらかすにも及ぶまいと見て居りましたが、連の婦人は別に氣にも止めませんで、上の空で返辭し乍ら本を讀んでをりました。これなどは個人主義の極端な例で、やはり東洋流の一つ御上りなさいの方が幾ら人情の暖味を感じるか知れませんが、しかし無駄な御附合などはやめた方がよろしいと思ひます。

個人主義が進歩すると、人々がその分を知るといふことになりませんが、これは是非學びたいことだと思ひます。現代の日本人は己の分を知らないといふ一大缺陷を有して居ります。たとへば大臣も敷島をのみ、書生も敷島をのみといふやうなことは、歐羅巴には決してないことゝ存じます。これは我邦の書生がその分を知らないからでございますまいか。我邦の書生が身の程を忘れて贅澤をしてゐるのは、確に我邦の一大缺陷であると思ひますので、是非歐洲の書生流に改めたいものと希望します。たとひ家に陶朱猗頓の富がありましても、書生の分を守らなければなりません。今日のやうに人おの／＼その分を忘れて居りましたは國家の前途大に憂ふべきものがあるので、國民たるものまさに三思を要する秋かと存じます。